

「JENESYS2.0」

2015 年度中国高校生訪日団第 3 陣 B コース

訪問日程 平成 27 年 10 月 12 日（月）～10 月 20 日（火）

1 プログラム概要

中国教育部が派遣した 2015 年度中国高校生訪日団第 3 陣 B コース計 123 名が、10 月 12 日から 10 月 20 日までの 8 泊 9 日の日程で来日しました。（団長＝王彬武（ワン・ビンウ）陝西省教育庁基礎教育処 処長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は 4 分団に分かれ、東京をはじめ、神奈川県、山形県、愛媛県、岐阜県、愛知県を訪問し、「クールジャパン」を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、学校訪問・交流やホームビジット・ホームステイ等を通じて、日本の高校生や一般市民との友好交流と相互理解を深めました。

2 日程

10 月 12 日（月）

羽田国際空港より入国

10 月 13 日（火）

オリエンテーション

セミナー

第 1・2 分団：慶應義塾大学訪問

第 3・4 分団：（独）日本学生支援機構視察

歓迎会

10 月 14 日（水）

第 1 分団：浅草見学、神奈川県へ移動、神奈川県立川崎高等学校訪問・交流

第 2 分団：神奈川県へ移動、横須賀市立横須賀総合高等学校訪問・交流

第 3 分団：学校法人関東国際学園関東国際高等学校訪問・交流

第 4 分団：学校法人郁文館夢学園グローバル高等学校訪問・交流

10 月 15 日（木）

第 1 分団：山形県へ移動、山形市総務部国際交流センター視察、霞城公園（山形城）見学

第 2 分団：山形県へ移動、ぶどう狩り体験、南陽市みらい戦略課視察

第 3 分団：愛媛県へ移動、愛媛大学訪問、愛媛県中国人留学生学友会との懇談

第 4 分団：愛知県へ移動、名古屋大学訪問、岐阜県へ移動

10月16日（金）

第1・2分団：学校法人九里学園高等学校訪問・交流

第3分団：愛媛県立大洲高等学校訪問・交流

第4分団：岐阜県立郡上高等学校訪問・交流

10月17日（土）

第1分団：農家民泊体験（山形県飯豊町）

第2分団：農家民泊体験（山形県戸沢村）

第3分団：松山城見学，藍染め体験，瀧雲山護持院太山寺見学

第4分団：飛騨高山見学，白川郷参観，愛知県へ移動

10月18日（日）

第1分団：農家民泊体験（山形県飯豊町），立石寺見学

第2分団：農家民泊体験（山形県戸沢村），霞城公園（山形城）見学，立石寺見学

第3分団：ホームビジット

第4分団：トヨタ博物館見学，名古屋城見学，徳川園見学

10月19日（月）

第1～4分団：東京へ移動，商業施設視察，歓送報告会

10月20日（火）

羽田国際空港から出国

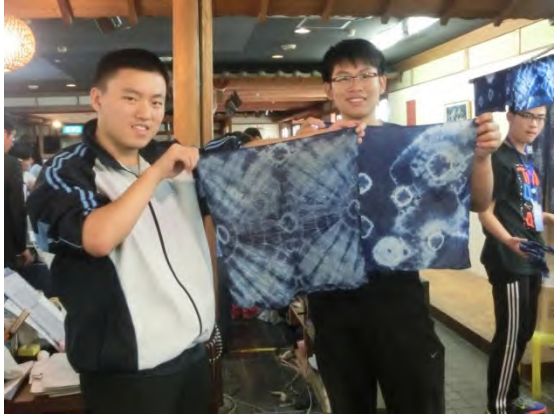
3 写真

	
10月13日 オリエンテーション（明治大学中野キャンパス）	10月13日 セミナー「異文化間教育と偏見の低減～多様な人々の相互理解を深めるために～」明治大学国際日本学研究科 横田雅弘教授（明治大学中野キャンパス）
10月13日 概況説明（明治大学中野校区）	10月13日 研究会「不同文化之间的教育与减少偏见～为了加深不同人群的相互理解～」明治大学研究生院国际日本学研究科 横田雅弘教授（明治大学中野校区）
	
10月13日 慶応義塾大学訪問（東京都）	10月13日 （独）日本学生支援機構視察（東京都）
10月13日 访问庆应义塾大学(東京都)	10月13日 考察日本学生支援机构（東京都）

	
10月13日 歓迎会（東京都）	10月13日 歓迎会 中国高校生のパフォーマンス（東京都）
10月13日 歓迎会（東京都）	10月13日 歓迎会 中国高中生の表演(東京都)
	
10月14日 神奈川県立川崎高等学校訪問・交流（神奈川県）	10月14日 横須賀市立横須賀総合高等学校訪問・交流（神奈川県）
10月14日 访问神奈川県立川崎高中・交流(神奈川県)	10月14日 访问横须贺市立横须贺总合高中・交流（神奈川県）
	
10月14日 関東国際学園関東国際高等学校訪問・交流（東京都）	10月14日 郁文館夢学園グローバル高等学校訪問・交流（東京都）
10月14日 访问关东国际高中・交流（東京都）	10月14日 访问全球高中・交流（東京都）

	
10月15日 山形市総務部国際交流センター視察（山形県）	10月15日 南陽市みらい戦略課視察（山形県）
10月15日 考察山形市总务部山形县国际交流中心（山形县）	10月15日 南阳市未来战略科（山形县）
	
10月15日 愛媛大学訪問（愛媛県）	10月15日 名古屋大学訪問（愛知県）
10月15日 访问爱媛大学（爱媛县）	10月15日 访问名古屋大学（爱知县）
	
10月16日 九里学園高等学校訪問・交流（山形県）	10月16日 九里学園高等学校訪問・交流（山形県）
10月16日 访问九里学园高中・交流（山形县）	10月16日 访问九里学园高中・交流（山形县）

	
10月16日 愛媛県立大洲高等学校訪問・交流 (愛媛県)	10月16日 岐阜県立郡上高等学校訪問・交流 (岐阜県)
10月16日 访问爱媛县立大洲高校・交流(爱媛县)	10月16日 访问岐阜县立郡上高校・交流(岐阜县)
	
10月17日 農家民泊体験(山形県飯豊町)	10月17日 農家民泊体験(山形県飯豊町)
10月17日 体験住农家 飯豊町(山形県)	10月17日 体験住农家 飯豊町(山形県)
	
10月17日 農家民泊体験(山形県戸沢村)	10月17日 農家民泊体験(山形県戸沢村)
10月17日 体験住农家 戸沢村(山形県)	10月17日 体験住农家 戸沢村(山形県)

	
10月17日 松山城見学（愛媛県）	10月17日 藍染め体験（愛媛県）
10月17日 参观松山城（爱媛县）	10月17日 体验用蓝靛染布（爱媛县）
	
10月17日 飛騨高山見学（岐阜県）	10月17日 白川郷見学（岐阜県）
10月17日 参观飞騨高山（岐阜县）	10月17日 参观白川乡（岐阜县）
	
10月18日 立石寺見学（山形県）	10月18日 霞城公園（山形城）見学（山形県）
10月18日 参观立石寺（山形县）	10月18日 参观霞城公园（山形城）（山形县）

	
10月18日 ホームビジット（愛媛県）	10月18日 名古屋城見学（愛知県）
10月18日 訪問家庭（愛媛県）	10月18日 参观名古屋城（爱知县）
	
10月19日 歓送報告会（東京都）	10月19日 歓送報告会（東京都）
10月19日 欢送报告会（东京都）	10月19日 欢送报告会（东京都）

4 参加者の感想（抜粋）

1

日本での交流期間に、私は日本の魅力をより深く感じるようになりました。日本は環境をととても重視する国であり、街には塵ひとつなく、空は青く澄んでいます。その中で私が最も驚いたのは、日本は経済大国で、人々の生活は豊かなのに、多くの人が出退勤のときに歩行あるいは自転車を利用しており、どこでも横断歩道の前で、数十人の人が道路を横切るのを静かに待っているということです。また、私が印象深かったのは、日本人の礼儀正しさです。彼らはいつも笑顔で私たちを迎えてくれ、「すみません」「ありがとう」などの丁寧な言葉を使ってくれました。

帰国後、私は周りの人たちに日本の文化、歴史、中日の各方面での違いを紹介し、彼らに日本を客観的に理解し、食い違いを減らし、偏見をなくすようにしてもらおうつもりです。

2

今回の訪問を通じて、私が最も印象深かったのは日本の各学校を訪問したことです。

最初の明治大学での教授の「固定観念」「偏見」「差別」に関する講演は私にとってとても有益でした。生まれ育った環境の違いや受けた教育の違いによって、見た目が周りの人と違う人に対しておかしいと思い、自分の観念をもって他人が自分たちと合わないと判断してしまうのかも知れません。本当はそうではなく、自分たちと合わない人も普通の人なのです。つまり障害者、老人、外国人もみな普通の人なのです。ときには、「自分たちと合わない」人たちや社会的弱者のほうが民主主義を守っているのです。それゆえ、私たちは自分の存在を多元化することを基礎にして社会の多元化を理解するべきなのです。

次に行った交流先の高校では三人の友好的で温かい日本の仲間と友達になりました。彼女たちは自分たちの学習生活を楽しんでいます。日本の高校の留学希望者がこんなに多いということをはじめて知りました。彼女たちのクラブ活動もとても多く、いろいろな素晴らしい瞬間の写真が学校の廊下に貼ってありました。私は日本に残って、彼女たちと一緒に勉強したいと思いました。

帰国後、私は周りの友達や先生に日本の発展ぶりや学習面の色々な様子、文化方面の優れた伝統を伝え、彼らに日本に対してもっとよい印象を持ってもらい、より深く理解してもらおうつもりです。

3

今回の訪問の中で、日本人および日本という国は私に深い印象を残してくれました。先ず日本の環境は非常にきれいで、道路にはゴミ箱さえほとんどありません。

次に日本の風景はとても美しい。ここではゆっくり歩いて、あたりを眺めれば、いたる所みな美しい景色です。訪問した季節はちょうど秋で、木の葉は次第に赤くなり、湖畔には淡い赤い光が映っていました。山の紅葉は緑に色を添え、火のように赤く、金のように黄色く、とても美しく、人々を魅了していました。

日本の人たちはとても温かく、友好的です。ここでは、たとえ言葉は彼らと通じなくても、交流することはできます。彼らはとても気が付き、車に乗れば飲料水をくれ、メモを取るための用紙もくれ、私たちが必要なものに一生懸命に気を配ってくれます。

こちらでは、私たちは日本の高校生と交流し、国籍を超えた友情の橋を築きました。た

とえ国籍が違い、文化が違って、とても素晴らしい、清らかな友情を持つことができました。彼らは楽観的で向上心に富んでおり、いつも微笑みをたたえていました。高校を訪問したとき、自分たちの最大の努力を尽くして私たちに説明してくれました。

帰国後、私は自分が見聞きしたことを親戚や友達にありのままに話し、中日友好の宣伝に一役買い、日本の友達と連絡を取り、末永く友情を保ちたいと思います。

私はこの素晴らしかった時間をいつまでも忘れないでしょう。

4

今回の訪問によって私は本当の日本を深く知り、日本に対する印象がとても大きく変わりました。例えば、訪日の前は、日本は杓子定規で、融通の利かない国だと思っていましたが、日本に来て初めて彼らは決して融通が利かないわけではなく、自分の原則を動かさないという条件の下で融通を利かしているということを知りました。

私は日本人の時間に関する極めて強い観念がよく分かりました。中国の大部分の人はこのような強い時間の観念を持つことはできません。しかし日本ではこの観念を持っている人が大部分を占めています。日本人はとても礼儀正しく、他人とあまり言い争いをしません。中国とは違い、観光客が写真を撮っているとき、日本人は立ち止まって、観光客が写真を撮り終わってから歩き出します。どんどん前を歩いて写真を撮っている人をどかせたりはしません。店の店員はお客さんが店で長く待っていると「すみません」と言います。このようにすれば中国のように旅行者や店のお客さんがその場で言い争うということはありません。こうすれば人の気持ちは和みます。

日本の学校で学び、私は強烈な学習の雰囲気と伝統的な日本民族の息吹を感じ取りました。私はその中に包まれ、身を置き、心の底から湧き出て来る喜びと感激を感じました。あらゆるものが私にとって新しいものでした。私は生まれたばかりの赤ん坊のように、好奇の目でこの世界を探訪し、この世界の美しさを見ました。

要するに、私は幸いにも日本に来て、優美な自然の景観を参観し、異なる人々の習慣を体験し、当地のいろいろな特色ある美味しいものを味わったのです。これらの記憶はみな私の頭の中にいつもでも残り、永遠に忘れることはないでしょう。

5

今回の訪問で私の印象が最も深かったのは、日本の伝統に対する継承です。私が見るところでは、日本は近代化と同時に多くの伝統文化を残しています。例えば日本人の日常のあいさつは、礼儀と謙虚さが日本の伝統文化の一部になっているからだと思います。このようにして日本の多くの風習が保たれて来たのです。例えば日本の女性は重要な祝祭日には、きれいな和服を着るなどということです。まさに文化の伝承があるがゆえに、日本はこのように美しいのです。帰国後、私も周りの人に「文化の伝承を重視しなくてはならない」などといった情報を伝えたいと思います。それは私たちの中国は高速で発展したのと同時に、多くの伝承されるべきものを忘れてしまっているからです。これは決して中国政府がこれらのものを重視していないということではありません。私たち中国人も多くの伝統をちゃんと守って来ました。しかし速すぎる発展は伝統と現代産業の衝突を招いたようです。その結果中国人の資質は低下してしまったのです。「忠、孝、礼、義、廉、恥」を覚えていて、これらを人生の信条としている人がまだどれだけいるのでしょうか。実を言えば、私もできていません。それゆえ私は中国が偏見を捨て、日本に学び、自分たちの伝統

をいかに守るかを学ぶようになってほしいと思います。私はこのことを目標にして他の人に宣伝するつもりです。

6

今回の活動で、日本の友達が私に残した最も深い印象は「礼を守る」ということです。出発前にはずっと言葉が通じないということが心に引っかかっていた。しかし日本に着いた後、これは杞憂に過ぎなかったことが分かりました。日本では、お辞儀と微笑みは、敬意、謝意、遺憾の意などあらゆる意味を含んでいます。感謝を表す必要があるとき、「どうもありがとう」の一言と敬語をつけるだけで、「大手を振って天下を歩く」ことができます。大通りで、誰と顔を合わせても、微笑みかけさえすれば、相手も必ず同じ礼儀を返すでしょう。ご飯を食べる前に「いただきます」の一言で生き物に対する敬いの気持ちを表しています。乗り物の中では携帯電話を掛けないことは他人に迷惑をかけないことになります。

もちろん、礼は表面的な見栄えのよい態度であるだけでなく、より多くは心の中からの人に対する誠であり、どこでも他人のためを考える態度なのです。家庭訪問の際、日本のお母さんの私たちに対する配慮は、至れり尽くせりと言っているいいものでした。食品を買うとき、彼女はほとんどの品でも私たち三人に「OK?」と聞き、三人全員がうなずいてから買いました。買い物のとき、友達が何気なく「お母さんに化粧品を持って帰りたい」と言うと、彼女はこの言葉を忘れず、私たちのためにいろいろな違った化粧品について一生懸命に説明してくれ、最後に自分の化粧品を私たちにプレゼントしてくれました。そして、出発の前、彼女はわざわざ東京の友達に電話してくれ、私たちのために東京の天気の様子を尋ねてくれました。これらのすべては、私たちに彼女の「礼儀」の美しさを感じさせてくれました。

内は礼を作り、外は儀を作る、心の中で他人のために考える、行動の中で他人に便宜を提供する。帰国後、自分の礼儀と修養を高めたいと思っています。そうしてこそ日本の良さを真に学ぶことができると思います。

7

私が最も印象深かったことは二つあります。一つは清潔、二つは細心さです。そしてこの二つは同時にまた「他人の立場に立って考える」という一つの核心を持っています。幾つかの例を挙げれば、トイレには和式トイレはほとんどなく、悪くとも普通の洋式トイレで、そのほかはみなスマートトイレです。学校、公共施設、ホテルにしろみなそうです。環境保護のため、買い物のときにはポリ袋はほとんど見かけず、紙製品一色で、このことは私たちも感心しました。建築物内にはいつも AED を見かけることができ、焼肉店のコンロのそばには液化二酸化炭素の消火器あって、似たような例は枚挙にいとまがありません。私は、これはこれらの小さな細心さが集まって大きな力となっているのだと思います。衛生、便利、整理整頓が日本を訪れたどの人の心の中にも深く根付くのです。日本語の文化や礼儀は、偉い人の話にも内心から発する相手に対する尊重の念を感じさせるものがあります。この点は中国の教育行政の担当者は学ぶ価値があります。松山城での一日、私たちは日本の伝統的な文化遺産に対する尊重と保護を真に体験しました。小さな天守閣と各門の保護は完璧であり、商業化と同時に、私たちは日本の戦国時代の文化を真に感じました。来る前に私は日本に対してとてもよい印象を持っていましたが、今はこの文化、歴史、

教育の魅力に一層感服しています。そして今後また日本を訪れたり、あるいは留学できる機会があるよう願っています。そうなればきっと私に違った体験をもたらしてくれると信じています。

8

日本の東京が私に与えた印象は現代、清潔ということで、愛媛が私に与えた印象は静かさと自然で、日本人が私に与えた印象は謹厳と友好です。バスの運転手であれ、ホテルの従業員であれ、コンビニのレジ係りであれ、全く見知らぬ人であれ、みなお辞儀をして微笑んで私たちにあいさつします。私はこの民族の友好と尊敬の態度を深く感じ取りました。何事も15分前にやることから彼らの謹厳さも知りました。

高校の交流と家庭訪問は私に素晴らし思い出を残してくれました。しかし最も私が感動したのは、もう一つの小さな出来事です。愛媛でのある夜、私たちは市電に乗り終点まで行くという体験をしました。しかし予想とは違い、終点は道路案内板とは違っていました。私たちは降りると、停留所の前でどうやって帰るかを話していました。そのとき、一人の中年の女性が私たちに「何処へ行くのか」と尋ねました。言葉が通じないので私たちは指で彼女に示しました。彼女は時間をかけて私たちに教えてくれた後、電車に乗りました。私たちはそのとき電車はお釣りを出さないと思い、停留所の前でどうやって小銭に崩すかを相談し始めました。そのときまた一人の中国語が分かる日本人が積極的に私たちに「何処に行くのか」と尋ねてくれて、道順を教えてくれました。このとき、電車の運転手も降りて来て私たちを助けてくれ、私たちに「この電車に乗りたいか」と尋ねましたが、私たちは断りました。私たちは他人に迷惑をかけたことを心の中で悔いると同時に、日本人の外国人に対する温かい手助けと無私の奉仕に感動を覚えずにいられませんでした。

日本民族の事に当たっての謹厳さと人に対する友好と尊重こそ、私が体験し、そして伝えたいことです。

9

私が得た印象で最も深かったのは日本の高校と生徒との交流です。先ず、日本の学内環境はとても清潔です。これはたぶん彼らの多くの優れた習慣と関係があると思います。例えば、教室に入る前に靴を履き替える、ゴミを分類して処理するなどです。これは中国の学園内とは大違いです。中国の学校は生徒数が多いけれど、学校の生徒に対する資質教育が少し欠けていて、生徒の環境に対する保護意識はしっかりとしていません。両国のこの状況の対比には、どうしても心が痛みます。

次に、日本の生徒の授業時間が1日の内で占める割合は中国に比べて遥かに少なく、生徒の生活はとても楽です。将来に対する態度も決して空想的なものではありません。課外補習クラスも少なく、スポーツ競技や伝統文化の伝承をとても重視しています。中国ではほとんど全部の高校生がプレッシャーの中で暮らしており、挫折と競争の中で何度もくじけて、だんだんと鋭さが削り取られ、ひどい場合には何事にも無関心になり、抜け殻となって試験問題の海で浮沈しています。これがたぶん中国の生徒が世界中でずば抜けている大きな理由でもあるのでしょう。

最後に、日本の青少年の外国の生徒に対する温かさ、気配り、礼儀は、多くの伝統的な優れた点が彼らの身体に余すところなく体现されているからです。集団意識、時間の管理、個人の素養、これらはみな私たちが学ぶ価値のあるものです。

来日訪問前の北京での研修で、先生は私たちに日本人の文化、風俗習慣について講義をしてくれたので、私は日本に対する一定の理解を持っていました。皆は高揚した気持ちで飛行機に乗り、初めての日本への旅を迎えました。始めの大学訪問で私は日本の教育について知りました。清潔で整った食堂や宿舎に私は驚嘆しました。日本の高校を訪問し、私たちは日本の生徒たちと都庁を参観しました。日本の生徒の親切さは私の日本人に対する見方を変えました。次の交流高校では、彼らの授業、生き生きとして面白い化学の授業を受けました。それにより私は日本の生き生きとした授業を体験しました。面白いグループゲームは私と日本の生徒との関係を深めてくれました。最後の、茶道クラブでの体験は違ったクラブ活動を見ることができ、日本文化を知りました。別れのとき、日本の生徒と別れるのが辛く、涙で目頭が熱くなりました。続く家庭訪問では、親切なおじさん、おばさんが私たちを海辺へ水遊びに連れて行ってくれ、たくさん写真を撮りました。また、現地が一番おいしいラーメン店に行き、ケーキや飲み物を買ってくれました。家に帰ると、彼らは自分たちの経歴を話してくれました。おじさんやお婆さんの温かさは私の心に触れ、たった 6 時間しか一緒にいなかったけれど、彼らはまるで私の家族のようでした。この 1 日で私は日本が好きになりました。

中国に帰ったら私は中日の間の友好を伝え、どの中国人にも温かく善良な日本人を見てもらいたいと思います。

私は中国青年代表として訪日できたことを光栄に思います。

日本での初日には夜に飛行場に到着し東京の美しい夜景を見ました。到着したとき、まず初めに担当者が熱心に迎えてくれ、心が温かくなりました。清潔な環境、秩序だった礼儀正しい対応、それだけで私が日本に対して持っていた少しの偏見を拭い去ることができました。

留学生の講座ではにより、日本に来て学ぶという考えが芽生え、美しい外観を持ち低俗ではなく優雅さを失っていない東京の建築物は私の建築設計士になりたいという夢をさらに強くしました。今回の訪日プログラムの期間中、最も印象に残った活動は愛媛県の高校での交流です。伝統的な中国の教育を受けた私は、自然に日本の高校生の生活について好奇心を抱いていました。その高校で私たちはパフォーマンスを披露し、一緒にご飯を食べ、一緒に行動し、一緒に授業を受け、一緒に校内活動に参加しました。最初は緊張しましたが、いつの間にかすっかり打ち解けていました。最後には別れるのがつらく、時間が延び延びになればいいと思い、動きたくありませんでした。温かく迎えてくれた日本人の手の中にずっと留まっていたいと思いました。本当に、私は離れたくありませんでした。その高校は清潔で明るく、多くの先進的な通信設備があり、また私に何とかしてまた戻ってきたいと思わせました。私はその高校が好きです。いつまでも思い続けています。すべてが離れがたいです。残念ですが私は留まることができません。けれどもまた貴重な美しい思い出を得られたことは幸運でした。私は一生忘れずに、ずっと覚えています。甘く美しかった時間を味わい続けます。

それから一般の民家に行き、そこで老夫婦がもてなしてくれました。本当のことを言うと、初めは年齢も高いし、文化の違う様子を目にして、どうやって意思疎通しよう、どう

やって交流しようと思いました。けれども老夫婦は自分の孫娘のように私たちをもてなしてくれ、私は家に帰ったような気持ちになりました。優しい老夫婦は海を見に連れて行ってくれました。愛すべき日本のおじいさんは私たちを見ていました。堤に腰を下ろし、慈愛に満ちた目で私たちを見ていました。その瞬間、私は国の違いなどない、みんな家族だと思いました。抱擁の後、もう会えないかもしれないと思いました。私は老夫婦にとって受け入れた多くの学生のうちの一人なのかもしれません。けれども私にかけがいのない思い出を与えてくれました。ありがとう。私の友達、優しいおじいさんとおばあさん。

12

今回の8日間のプログラムが間もなく終わろうとしています。以前は日本という国についてよく知らず、ロマンチックな桜の国、あるいは漫画に出てくる万能ロボットのドラえもんのイメージしかなく、自分自身が16歳でこの様なプログラムに参加して日本を訪問する幸運に恵まれるとは思いませんでした。私は今回の感動の旅について述べ、また明日はたくさんの収穫を手にもって祖国に帰って、全ての感想を家族や友人に話して聞かせたいと思います。

美しい環境、友好的な日本人、真摯な感情を私は忘れることができません。きれいな道、新鮮な空気、落ち着いた雰囲気、温かい気持ち、とても強い時間の概念、行き届いたおもてなし、気持ちのこもった挨拶、どれも私の印象に深く残りました。高校訪問では茶道等の伝統文化を体験し、奥深い魅力に触れたことはこの上ない幸運でした。日本に対する理解を深め、中日の文化の差を体験し、同時に新しい友達と国を超えた友情を交わし、何にも比べられない温かい気持ちになりました。日常生活の中で日本の環境保全について理解し、魅力的な風景を味わい、視野を広げました。また日本の高度な文明を身を以て体験し私は深く感じ入りました。

短い訪日プログラムでした。満開の桜に心を震わせることはありませんでしたが、私たちみんなが気持ちをつなぎ、一杯の気持ちを持ち帰ります。私はこの経験が私たち一人一人の宝物になると信じています。

13

今回の訪日経験は私の想像を超えていました。私は中国と違いの大きい日本の生活風景を見ました。今回の訪日経験で最も印象に残ったのは濃く青い空、きれいで清潔な道路、担当者の熱意でした。日本の基礎インフラは発展しており、人々の素養が高く、環境は保全され豊富な経験が蓄積されています。発展し始めたわが祖国について言えば、確かに多くの学ぶべきところがありました。私は友人たちに日本のユニークな食べ物について話します。私は友人たちに日本の発展した商業について話します。私は同級生たちに日本の豊かな高校生活について話します。

最後に、私は中日両国の友好と平和を心から望みます。人類の進歩のために微力を尽くし、中国の高校生の一人として、私はもう一度日本に来て、さらに一層相互理解を深められたらよいと思います。

14

7日前、私は団として日本を訪れる幸運に恵まれました。ここでのすべてを書きたいと思います。きれいで清潔な道路、熱心でもてなし上手な人々、美しく壮観な風景、完全で

人に優しい施設などなど、すべて私に日本の魅力を感じさせました。今回の訪日プログラムで最も印象に残ったのは神奈川県の高校との交流です。二つの言葉の違う異国同士の生徒が、一緒に交流し、一緒に授業を受け、一緒に笑い、とても良い友達になりました。私はこれを奇跡と言わざるをえません。時には私は日本の友達に言葉が通じないことを忘れてしまったほどでした。私たちの交流が水のように滑らかだったからです。こんなにも調和のとれた、滑らかな、美しい交流。私は日本の友達との友情が永遠に続くものだと確信しています。空間が変化して消滅していました。

今回の交流によって、私は日本人の時間を守る姿勢、清潔さ、礼儀正しさ、熱意を自分の家族や友人や同級生に伝えます。みんなに日本を理解してもらい日本を好きになってもらいます。日本と私たちが真の相互理解を進められるように。両国の友好が永遠に続きますように。

15

待ちに待った美しい隣国—日本へとうとうやってきました。

最初に日本に着いた時に最も印象深かったことは日本の細やかさです。日本の便器はすべて多機能性のもので、便座は使っていない時にも温められています。いつでも使う人が温かく気持ちよく使えるようになっているのです。日本の宿泊施設には鏡があって、その一部分だけが加熱してあり、身体を洗う時に湯気で鏡が覆われても加熱した部分は水滴がつかず自分をみることができるのです。

日本でのプログラムも終わりの声が近づき、こんなにも多くの日数を掛けて深く触れることが出来、私は日本での多くのことに好感を持ちました。日本人の勤勉さと友好の姿勢に私は感動しました。朝7時に日本の街には仕事着姿の人々があわただしく歩く姿で溢れていました。まだ薄暗い中で私の心は震えました。高校の交流体験の時には私のパートナーが我慢強いサポートで優しく私と接してくれ、とても愉快で気持ちがよかったです。

私はいつかもう一度日本に期待と思います。そしてさらにこの国のことを深く理解したいと思います。

16

最も印象深かったことは三つあります。一つ目は高校でパフォーマンスをしたことです。みんなが自然に温かく、元気いっぱいの笑顔になり、私は本当に感動しました！

二つ目は、これも高校で、剣道のパフォーマンスを見たことです。礼儀正しく胆力と力に溢れ、動きは自在で、礼節が重んじられていました。

三つ目は、団の随行スタッフの真面目な対応ぶりです。行き届いた対応をして頂き、夜遅くまで仕事をしていても泣き言ひとつ漏らさず、謙虚で温和に一つ一つの仕事に向き合っていました。日本人の素養の高さを感じました！このことは尊敬に値することで、これ以上はないほどの力を注いでいました！

17

今回の交流訪日プログラムの9日間でたくさんの収穫を得ました。

明治大学と慶応義塾大学で私たちは国際化教育について深く学び、従来のグローバル人材の狭い定義にとらわれない、新しく高度なグローバル人材モデルを知りました。

二つの高校では、学校設備をよく知り、部活動や様々な実用的な選択科目について理解

しました。中国の教育との違いについて、数学的思考を通じて交流しました。

日本の民家での生活を体験し日本の公園や山寺を訪れたことは、私たちに日本のまた別の一面を見させてくれました。普通の農家の方との交流を体験し、みなさんの素朴な人の良さと、温かい友好的な気持ちを感じました。同時に日本の労働者の辛抱強い精神についても理解できました。

今回の日本の旅は、日本人のありのままの生活に触れられただけでなく、交流を通じて自分自身の日本についての味方を変えることになりました。

最後に、コーディネーターのIさんと通訳のIさんの9日間のご苦勞に対し感謝します。二人の慎み深い仕事に対する精神は私たちを感動させました。今後、機会があったら美しい桜の国にまた来たいです。

18

環境がとてもよかったです。道路は綺麗で、自分の家と同じように考えています。どこに行っても、きれいなのは国民一人ひとりの素養が高いからです。日本人は人に迷惑を掛けませんし、また人を煩わせたりしません。礼儀を重んじ、人々はみんな礼儀正しく、秩序を持って行動しています。

日本は間違いなくとてもきれいな国です。一日道路を歩いても靴の裏が変色することはありません。道路を走る車もボディだけでなく、タイヤまで元の色のままです。まるで出荷されたばかりの新車のように見えました。日本で過ごす間、一度も日本人がゴミをポイ捨てするところを見たことはありませんでした。環境の保全に配慮し、いたるところに木が植えてあり、空気もきれいです。日本の公衆トイレは、地下鉄の駅、街の中、農村の公園にいたるまでとても清潔で便利です。

日本のゴミは、分別が徹底されており、ゴミの有効利用率がとても高いです。空気がたいへんきれいです。日本の道路を走っているのはほとんどが小型のエコカーで環境にとっても良く、空気汚染にも配慮されています。日本の道路にはどこを見ても紙屑やポリ袋などが見当たらず、喫煙は指定された場所だけでしかできません。日本人のそうした素養は高く、それは例えば、ショップ定員の態度、挨拶、訪れる客などが証明しています。英語で販売員に説明を求めると、彼女は一つひとつ手に取って納得するまで見せ、その態度も言葉づかいもとても丁寧であり、買い物客を王様の気分になさしてくれます。

19

日本に来ることが出来て光栄です。日本に来て初めて私は多くの中国人が日本のことをよく知らず真っ直ぐ見ていないと感じました。今回の訪日で私が一番中国と違うと感じたことは、日本人の素養、節操、温和でフレンドリーな精神です。この違いについて敬意を感じました。羽田空港がだんだん近づいて来て私は本当に自分が日本に来たのだと実感しました。飛行場は明るく輝きとても快適で、人々は秩序よく自分の荷物を待っていました。担当者はみんな微笑をたたえ、それも堅い無理な微笑ではなく、心から楽しそうな温かい笑顔をとたたえていました。次に日本の交通について、日本の建物、高架橋、道路はかなり密集しています。一つひとつがくっついていきます。運転するのは大変だろうと思いましたが、実際には車は高速道路を穏やかに走っており、すべての車が周りを気にしながら走っているのです！日本の車での輸送は鉄道輸送よりも安全だと聞いたことがありますが、私はそれを信じます！東京都に入ってもやはり清潔で、路面には車線が引かれており、周り

の樹木は園芸師が手入れをしているものでした。緑化され、かつ活気のある都市でした。車の量も多かったです。ゴミ箱は少ないのですがどうして道路がこんなにきれいなのでしょうか。私は日本人の素養が高いからだと思います。また不思議に感じたのは夜景を見ても賑やかで騒がしい印象を感じなかったことです。喧騒は聞こえません。車のクラクションも聞こえません。この数日間の日程では学校交流訪問をただけでなく、自分自身を見つめ直すことになりました。心の旅でした！私たちが学ばなければならないことはたくさんあります。改善しなければならないこともたくさんあります。やはり日本に来て、私はこの言葉を信じます。何事も感謝のうちにあります！

20

今回の交流で最も私の印象に残ったことはやはりホームステイです。ホームステイの体験は今回のプログラムの目玉でした。その他の交流、講演会は、文字に書かれたもので身近に感じるができなかったのですが、ホームステイ体験は全く違いました。この体験があったお陰で私は日本の食文化やいろいろな表現できない気持ちを理解することができました。

ホームステイの間、私たちは農村の生活を体験しました。まるで芋を掘って日暮れを迎え、苺を積むような体験でした。日本で農村生活を体験できたことは楽しかったです。もう一つ私が思ったことは、日本人はとても細やかだということです。説明をしましょう。例えば、私があまり考えずに一言、「こちらのラーメンは美味しいでしょう？」というご主人が笑って頷きました。二日目の朝、私は台所に大きな美味しいラーメンの鍋があるのを見つけて感動しました。私はとても恥ずかしく思いました。実は本当にしてほしかったわけではなく、知らずにみなさんに手を煩わせ面倒をかけてしまいました。私は本当に恥ずかしいです。

今回の訪日に感謝します。先生が私に訪日の機会を与えてくれたこと、私の周りの全ての人に感謝します。

21

最も印象深かったことは農村でのホームステイ体験です。私の家はとても優しいおじいさんとおばあさんの家でした。英語が話せず、日本語があまりできない私にとっては一つの試験のようなものでした。私の語彙は少ないのですが嫌な顔も面倒がりもせず私が聞き取れない言葉を説明してくれました。私たちのために繰り返し話をしてくれました。分厚い眼鏡をかけて言いたいことを一つ一つパソコンで探して翻訳した言葉を見せてくれました。とてもたくさんの三食の食事を用意してくれました。おじいさんとおばあさんは朝起きるのが早く、心を尽くして美味しいご飯を作ってくれました。農業用施設に案内してくれました。一生懸命、中国語と日本語の両方を書いたカードを用意してくれ、お米の加工の工程も説明してくれました。・・・・・・最初のうちは交流するのが難しかったけれど、私は一緒におしゃべりの時間を十分楽しみました。短い間でしたがこれは私のとても大切な思い出です。別れるときはたくさんの人が泣きました。私も堪えきれずに泣いてしまいました。おばあさんが優しく私の頭を撫でてくれ、私を慰めてくれました。このような出会いと別れはきっと慣れているだろうに、私はおばあさんの目に涙が光っているのを見てとても感動しました。帰国したら私は必ずこの感動と日本人たちの善良さ、素朴さを周りの人に話します。そしてみんなに真の日本の人々のことを理解してもらいます。